

日本共産党市議団

小野寺幸恵・渡辺 満
工藤 良一・富岡 隆

一般質問

渡辺 満

●就学援助の拡大

クラブ活動費、生徒会費、PTA会費の支給は、道内89市町村が実施している実態を示し、苫小牧でも実施することを提案しました。



市教委は、「新年度から実施する」と答弁し、12月に支給する学用品費に上乗せして支給することを示しました。

さらに、新入学用品費は、2月の代表質問で党市議団が、「入学前に支給すべき」との保護者の声を受け、提案した経緯もあり、今議会で「子どもの貧困対策として重要」と実施を強く提案しました。市教委から、30年度から3月に支給するとの答弁があり、中学生を先行して29年度から実施することが示されました。

●市営住宅の改善対策について

熱供給管の不具合で、末広町の住棟を用途廃止する予定であることから、個別暖房にして活用することを提案し、再活用することが

示されました。

副市長は「旭町のC判定の住棟は建て替えをあきらめ、末広町の住棟(用途廃止予定)を活用できるとの考えから、改めて手をかける方針になった」と説明しました。

富岡 隆

●平和行政について

政府が国連で核兵器禁止条約に反対したことに対する市長の認識を求めました。



市長は「日本は唯一の被爆国。これからも今も、リードして核兵器の廃絶を求めていきたい」と答弁しました。

また、平成29年は非核平和都市条例制定15年目になることから、広島派遣事業の人数の拡大と、庁舎の懸垂幕を通年で掲示することを求めました。

広島派遣事業は「少しでも多くの子どもに経験してもらいたい」と、増員する方向性を示し、懸垂幕については「平成29年以降は可能な限り長期に掲示したい」と答弁しました。

●沼ノ端の複合施設について

ウトナイ小学校の放課後児童クラブでの待機児童の実態から、建設予定の沼ノ端複合施設に放課後児童クラブの設置を提案し、40人規模の1クラブを設置することが述べられ、待機児童の解消になることが説明されました。

また、子育てに悩んでいるお母さん達が相談できる専用の機能を持たせることの重要性を提案し、相談室を設けることが答弁されました。

さらに、大成児童センターの取り組みを紹介し、子どもの貧困対策として子ども食堂を実施することを要請しました。

議案審議

工藤 良一

●緊急雇用対策事業費について

市単独の緊急雇用対策事業の目的である新規雇用の割合について



質問し、約9割(35/39人)が新規雇用であるとの答弁がありました。また、「この事業がなければ35人が仕事を求めて転出してしまう。

配偶者がいれば70人、家族がいれば100人を超える転出があるかもしれない」と、人口減少対策にも寄与していることを示し、さらなる事業の充実を提案しました。

副市長は「仕事があれば正月を越すのも苦労する人がいる。しっかりと対応していきたい」と答弁しました。

小野寺 幸恵

●介護ロボット導入について

介護従事者の負担軽減、職場環境の整備による介護従事者の確保



を目的に、国の補助事業として提案されましたが、「介護ロボットにより負担軽減にはなるが、人材確保につながるのか。処遇改善が重要では」と質問しました。

担当部長は、処遇改善の必要性を認め、たうえで、「腰を痛めて退職する方もおり、人材確保のためには介護ロボットも必要」と答弁しました。

この事業は、全国からの希望が多かったことで補助金が大きく削減されたため、処遇改善も含め、さらなる国の予算措置を求めました。